

ほっと すぺ〜す

No.144
2022・10



全国手をつなぐ事業所協議会ニュース

今号では

◆全国手をつなぐ事業所協議会のホームページができました



ハーブのバタフライピー（蝶豆）の花の摘み取り

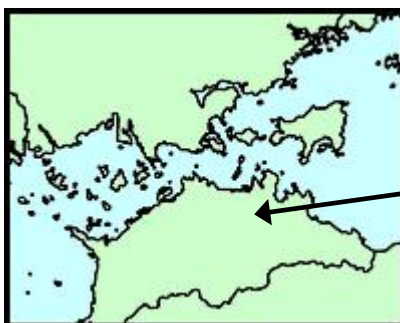


藍の葉と花

【たんぽぽの家の皆さん】

全国の事業所から

（社福）香川県手をつなぐ育成会
たんぽぽの家
《香川県 高松市》



ほっとすぺ～す

今号の目次

No.144 2022年10月発行

3



全国手をつなぐ事業所協議会のホームページができました

4



On The Frontline ～ 前線に立つ ～

そこにあなたがいるだけで、まわりが明るくなる
ただそれだけかもしれないけれど あなたという存在が
大切なのです

社会福祉法人復泉会 くるみ共同作業所（静岡県 浜松市）
施設長 峰野 和仁 さん

12



全国的な事業所から

たんぽぽの家（香川県 高松市）

16



編集後記

おしらせ

全国手をつなぐ事業所協議会アンケート調査の 集約状況について

先日、事業所の皆さまにご協力いただきました、全国手をつなぐ事業所協議会のアンケート調査については、ただいま集計作業をしています。

次号「ほっとすぺ～す145号」（2022年11月）で、アンケート調査を集計した結果と概要を報告する予定です。

しばらくお待ちください。





全国事業所協議会より

全国手をつなぐ事業所協議会のホームページが できました

2022年度(令和4年度)から全国手をつなぐ事業所協議会が、一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会の正会員になりました。

これを機に、全国手をつなぐ事業所協議会でホームページを作成しました。

今後はホームページも活用しながら、研修会の案内や全国連合会からの情報も併せてお知らせをしていきます。

これからも広報紙「ほっとすぺ〜す」とともに、さまざまな情報発信に努めてまいります。



ホームページのURLは次のとおりです。

<https://www.zente-jigyosyo.jp/>

一度ご覧になってみてください。



【ホームページ】

また、Facebook・Instagramでも発信をしていますので、こちらもお覧になってください。

Facebook

<https://www.facebook.com/zenkokujigyosyo>



【Facebook】

Instagram

<https://www.instagram.com/zenkokujigyosyo/>



【Instagram】

On the frontline

～前線に立つ～

「On the frontline ー前線に立つー」では、障害福祉を前線で支える「人」にスポットライトを当てます。全国各地で障害福祉に携わり奮闘されている皆さんにお話を伺い、その活動を広く皆さんに伝えていく企画です。今回で11回目となります。

今回の対談は静岡県浜松市にある、社会福祉法人復泉会・くるみ共同作業所の施設長をされている峰野 和仁 さんです。

峰野さんは昭和52年生まれの45歳。ご自身、作業療法士の資格をお持ちという峰野さん。3世代6人家族で暮らす、人とのつながりを最も大切とする地域のリーダーです。続けてきたボランティア活動で内閣官房長官より表彰（地域や社会に貢献する活動）もされていらっしゃる。知的障害のある方たちとの出会いや現在の仕事への思いについて伺いました。

第11回

そこにあなたがいるだけで、まわりが明るくなる
ただそれだけかもしれないけれど あなたという
存在が大切なのです！



社会福祉法人 復泉会 くるみ共同作業所
施設長 峰野 和仁 さん

【松崎】 本日はよろしくお願ひします。

さて静岡は9月の台風で大きな被害を被ったようですが、峰野さんのいらっしゃる浜松方面はいかがでしたか。

私も静岡には縁のある方もたくさんおり、そもそも妻が磐田市の生まれです。もともと台風がいつも来る場所と聞いていましたが。

【峰野】 我々のいる浜松市はそれほどではありませんでしたが、静岡市の山間の方は被害があったと聞いています。

【松崎】 そうですか、被害が少なくは何よりです。近年は台風などで激甚災害の指定という話を毎年聞くようになりました。静岡市方面の方たちは大変だったかと思ひます。私たち事業所協議会でもいざという時の支援体制

を考えていきたいと思っています。

さて早速ですが、作業療法士の峰野さんが今どうして、この障害福祉の世界にいるのか。その経緯を教えてください。25年前、作業療法士はまだまだ聞き慣れない資格だったと思いますが。

【峰野】 私が福祉を目指すきっかけは高校時代で、中学まではというと野球ばかりしていました。肩を壊して野球ができなくなって、高校時代はやることもなく、友人にボランティア活動部を作らないかと一緒に始めたことが福祉への一歩となりました。

部活を作った後すぐに、阪神淡路の震災があつて、ボランティアに行くことになりました。しかしボランティアで被災した地域に行っても実際にできることは少なく、給水車のタンクから水を運ぶことくらいで。ところが、そこにいた地域のおばちゃんたちが、人が困った時に解決していく姿があり、その時とても印象に残りました。ボランティア活動に自負があつたのに、何もできないことにもショックを受けて・・・。

その後もボランティア活動を続けていましたが、社会福祉協議会の方たちとつながる機会があつた時に、「車いすの方がいたら、あなたはその時助けるか」との問いに、そこにいた人たちが「知らない人ならばできない」と答えていたのを聞き、人を助ける・助けられる関係にはいろんな人とながつて知り合いにならないといけないのだと痛感しました。



今の法人との関わりは、法人の始まりの頃のくるみ作業所にボランティアで行ったことがきっかけでした。そこで、前理事長の永井 昭 氏と出会い、「障がいのある人たちが当たり前暮らしせる」という言葉に感銘を受け、福祉の道を本格的に目指すようになりました。

しかし、福祉の道と言っても、何をすればよいか分からず、その頃は福祉の世界は狭き道でしたので、とりあえず資格が必要かと思い、始めは

社会福祉士が取れる大学へと思ったのですが、医療からの貢献ができないかと考えて医療専門学校へ。男子校に行っていたこともあり、女子の多い看護学校は行きにくいこともあり、作業所でボランティアをしていた関係で、作業療法士が必要かと思いそちらの進路を選択しました。

そして、くるみ作業所でのボランティア活動を継続しながら、作業療法士の資格を取って入職したのが現在に至る経緯になります。

【松崎】 そうでしたか、行動力がないと進めなかった道ですね。高校生でボランティア活動をされていたことが障害福祉への道につながったということですから、素敵なお話をお聞きしました。

知的障害の方との接点はその前からあったのでしょうか。ご家族や周りに知的障害の方はいらっしゃいましたか。

【峰野】 くるみにボランティアに行くようになって初めて知的障害の方と接するようになりました。小規模作業所でしたので、仕事を通して通所してくる方たちが中心で、医療的ケアが必要な方たちはいらっしゃいませんでしたが、自閉症の方など行動障害のある方たちはいらっしゃいました。

それまで障害のある方というイメージしていたのですが、自閉症の方など、何度も話しかけてくる方がいたり、普通に接してくれる方がいたり、よく覚えていてくれる方がいたり、今までの障害のある方たちのイメージとは違っていましたね。

【松崎】 そうですか、作業所でいい出会いがあったんですね。

【峰野】 現在私がいるくるみ共同作業所は、はじめにボランティアで行ったころのくるみ作業所ではなく、法人格を取ってからできたのが今のくるみ共同作業所となります。くるみ作業所からの方も半分くらいはいらっしゃって、年齢は40代～70代後半くらい、高齢化してきています。企業から戻ってきて来た方もいらっしゃいます。

【松崎】 多機能で生活介護もなさっていますが、東京では生活介護の課題として、B型との区別があまりない事がよく取り上げられます。生活介護の本来の在り様として、重度の方が通えるような生活介護が求められていますが、「働く」作業所としての経緯が長かったところは、生活介護のプログラムは貧弱です。峰野さんのところの生活介護はどのような展開をされているのでしょうか。

【峰野】 くるみ共同作業所では就労継続B型では施設外就労をメインにしている、生活介護も仕事を通しての活動が中心となっています。生産活動を中心に展開している生活介護だからか重度の方（医療的ケアが必要な方



【くるみ共同作業所の外観】

など）が選んでやってこない現状があります。

ですが自閉症の重度の方で、生活面の支援がかなり必要でも単純な仕事は得意、という方は多く通われています。その方たちは仕事のない日や空いた時間などの対応などの方が難しいですね。

【松崎】 自閉症の方の対応での困難さは抱えている、そういう意味ではある程度重度の対応もできている事業所とも言えますね。施設外就労はどのようなことをされているのでしょうか。

【峰野】 施設外就労は職員と一緒に行くわけですが、お弁当屋さんの弁当箱の洗浄や、じゃがいもの芽とり作業、水耕栽培での種苗の植え付けや収穫などもしています。施設外就労は契約した仕事のため休めないのが難点ですね。その代わり工賃は高いです。パートの方の何人分かの計算になります。報酬改定で事業的には単価が若干マイナスになりましたが、ただ大きくは変化ない状況です。

【松崎】 現在の法人全体の状況も教えてください。法人のホームページも拝見しましたが、機械化が進んでいるように思いました。また工賃についても教えてください。

【峰野】 法人の事業としては、日中事業を6か所（多機能事業所含む：生活介護2か所、就労B型5か所）、グループホーム6か所、短期入所2か所、相談事業1か所、日中一時事業5か所です。日中一時事業は積極的にというよりは就職している人が平日に利用したり、緊急的に時間外の預かりなどを行っています。

またKuRuMiX（クルミックス）という店舗は就労継続B型なんです。果実飲料の製造工場になっています。

KuRuMiXの場合は農家とのつながりで誕生しました。浜松はみかんが有名ですが、ジュースを作るのは県外にお願いしていたんです。それをどうにか浜松でジュースにできないかと、みかんジュース工場を作ることになり、私達の仕事に。あとからB型での展開となったというところなんです。



【KuRuMiXの皆さん】

機械化してより特色ある商品ができるようになりました。入れ替わりの時期に補助金をもらってタッチパネルにしたりしました。知的障害の方もタッチパネルであることができることも増え、重度の方でも仕事ができるので大変重宝しています。貰えるものは貰っておくというのが法人の考えです。印刷事業でもオンデマンドの機械を2台使用しています。またドライフルーツを作る機械であったり、粉末にしたりする大掛かりな機械もあります。

工賃については、くるみ共同作業所のB型で月額一人平均3万6千円、生活介護でも1万6千円です。事業所としては年間5千万円～6千万円弱を目指して取り組んでいます。



【食品加工作業の様子】

【松崎】 では別の視点でお話を伺います。障害福祉に年数を重ねてこられた今、峰野さんにとって障害福祉の課題はどんなところですか

【峰野】 支援法ができて時間も経ってききましたが、縦割り感を感じています。温かみがなく、誰がキーパーソンなのかわかりづらい。担当の人の力量によって左右されている感じがしています。縦割りになって、回されている感があり、落とし穴もあり、また抜け道を上手く使う利用者もいる。制度的には整ってききましたが、うちでは利用者の生活に入り込んでいる部分も多く、制度にない部分は無償ボランティアの部分もあり、課題を感じています。

【松崎】 縦割りでは救えないということですか。B型や生活介護で一番かゆいところを誰がやるか本当に課題ですね。相談支援の問題もありそうです。制度が悪いのか、その運用がわるいのかということですが、そのような状況下での支援のあり方を、今入職されるような新しい職員さんはどのように感じていらっしゃいますか。

【峰野】 今いる職員たちはそんな支援についてきてくれていますが、その分残業もあり疲労も感じていると思います。事業的には時間外が増えることで予算もあり、このままではどうかと感じています。

相談支援の担当の方とも連携はしています。他の事業所がホームヘルパーで入ったりもしますが、人と人との関係性の部分で、日中長い時間関わっている職員がかかわった方が安心感を得られるケースが多いです。

法人の持っている相談事業所は計画相談と一般相談をしています。一般相談の方は浜松市と他の法人事業所と一緒にしていて、担当地区が事業所のある場所と異なり、事業所の相談は別法人の相談事業所との連携になるので、なかなか当てにできなかったり、計画を作るのに飛び回っていて、相談すること自体、難しい現状があります。

【松崎】 なるほど。そうすると峰野さんが日中活動で一般相談を担当している感じですね？

【峰野】 そうなるかもしれません。法に触れるところは割り切っている法人もあるかと思いますが、この考え方はうちの法人の個性かもしれませんね。もっとホームヘルパーなど制度に載るものを作ったり、制度に載らないところは実費でもらったりと考えていく必要もあると思っています。アパート暮らしの方や夫婦で暮らしている人もいます。どこかで実現させなければと思っています。

【松崎】 制度的課題は横に置き、まずは困っている人の痒いところは搔くよ、というところでしょうか。8050問題など家庭の支援がこの先増えてくることが予測されます。浜松市ではどのような対策が取られているのでしょうか。一人で暮らせない方たちはどのようにされていますか。方向としてグループホームを増やすという案が多いのですが、それには携わる職員の確保が問題だと思えますが。

【峰野】 浜松市ではこれといった対応はないのですが、法人では送迎ルートを増やしたり、連絡協議会などにもこちらから投げかけたりはしています。一人で暮らせない人については、今はグループホームで対応していますが、ホームを増やさないと対応が取れなくなってくることも予測されます。

宿直という形で求人を出していますが、人はなかなか来ません。日中の職員も集まらない。これも課題になっています。私だけで対応することは難しいので、職員で分担して取り組みます。職員の中には自宅での利用者の状況について勉強したい人もいて、介護福祉士などを目指しながら意欲をもって取り組んでいる人もいます。

【松崎】 今の若い職員さんたちに「これだけは伝えたいこと」を教えてください。

【峰野】 そうですね。何だろう。時代はすごく変わってきていると思います。AIの時代にもなっていますが、福祉の仕事は変わらない部分も多いと思います。すべてAIができるとは思っていません。今をチャンスととらえて、チャンスとして乗り換えていければと。

障害福祉＝無償ボランティアという概念は、措置時代から変わらずあって、やってもやらなくても、制度の中ではあまり報酬としては認められているとは感じられないかもしれません。そのこともあってか、人材も集まらず、離職率も高い。

自分の仕事を誇りと感じて仕事をしてくれる後輩たちが育つことに力を入れていきたいと思っています。どれだけ障がいのある人に寄り添えるのか？それが福祉の醍醐味だと思っています。制度に則っていることで、縦割りになってしまう。キーパーソンが不在の中で、果たして「人」の人生の質（QOL）を高めることができるのか？と感ずることが多いです。この事はこの人、あの事はあの人・・・私たちはこんな風にたらいまわしにされて人生を送っているわけではないのに、と感ずます。関わった人の力量によって、その人との人生が左右されてしまうこの仕事。実は医療現場なみに重大な仕事をしていると感ずています。

職員には「単なる仕事としてではなく、想いを持って障害のある人に接することが大切」と伝えたい。また、制度では、なんだかんだと障がいのある人の想いよりも、その人の能力で区別してしまっていると感じています。

そして、この仕事には、大きく二つの任務があると感じています。1つは障がいのある人への直接的な支援、もう1つは地域の方々に障がい理

解を伝える支援。この二つができてこそ、誰もが安心して暮らせる街づくりに連なると思っています。

障がいがある方たちが地域で過ごす、その地域とつながりを持っていてもらいたいですね。うちの作業所には作業療法士を持っている職員が6人いますが、障害のある方たちのこと、情報を発信して、いろいろなところで知ってもらう、発信する仕事としてとらえ、住みやすい暮らしを応援することをしていてもらいたいです。



【地域交流パーティーの様子】

【松崎】 峰野さんは、小・中学生にお話をする機会も持っていらっしゃるとのこと、どんなことを話し、訴えているのでしょうか。

【峰野】 人にはいろんな人がいるということ。

障がいのある方が携わっている仕事の内容についてはもちろん、出来ないことも出来るようになることについて伝えていきます。当たり前と思っていることが当たり前ではないということ、そしてその人のことを思いやって対応することは障害のあるなしに関わらず大切なことだということを伝えていきます。

【松崎】 少し話は少しそれますが、峰野さんの家族構成は？ご家族にもそういった福祉の話はされますか？

【峰野】 子ども2人（中3、小5）、おじいちゃん・おばあちゃんに住んでいる6人家族です。上の子が小学校の時はよく話をしていましたが、今はあまりしていませんね。

【松崎】 3世代同居ですね。家族仲良く暮らしている様子や地域の方たちとのつながりを大切にされている様子が想像できますね。子育て世代、40代の人たちが踏ん張ったり、引っ張っている法人や事業所は本当にいい事業をしているなど感じています。

それでは最後となりますが、制度のことや国に対して、今これだけは訴えたいこと、そして峰野さんの夢、20～30年後について聞かせてください。

【峰野】 制度については、人の人生を預かっている部分では福祉も医療と比べると何も変わらないのに、報酬が低いのではないかと思います。措置の時代にはやってもやらなくても一緒だったけれど、いい部分もあったと思っています。今は仕事としてしっかりとやらないといけない、そして制度もそれに対応して良くしていてもらいたいです。

自身の夢というと、私の人生の目標は、自分の葬式に何人来てくれるか

ということで。今でもそれを思っていて、いろんな人とどうつながれるかが自分の価値につながると思っています。

飲みに行った時もいろんな業種の方とお話をしたりして、それが仕事につながったりすることもあります。これからも自分のつながりを多くしてやっていきたいと思っています。これからもいろんな人とつながっていきたいです。

【松崎】 ありがとうございます。人好きの峰野さん。今日対談させていただき、本当に人が好きな方なんだと感じました。また仕事楽しいという感じがお話から伝わってきてきました。そして峰野さんのような方が障がいのある人の側に、最もいてほしい人だとも感じました。

復泉会のホームページを拝見すると「一隅を照らす」という言葉が出てきます。～そこにあなたがいるだけで、まわりが明るくなる。ただそれだけかもしれないけれど、あなたという存在が大切なのです～

人とのつながりや関係性、そして人への優しさを感じられる言葉ではないでしょうか。

峰野さんが目標とする人とのつながり。この先もそのつながりを大切に、現場生命を長く続けていってほしいと思います。本日はありがとうございました。

（全国手をつなぐ事業所協議会 理事長 松崎 伸一）

『手をつなぐ』新規購読募集中

●最先端の情報をお届けします

（一社）全国手をつなぐ育成会連合会の賛助会員としてお申し込みいただくと、特典として『手をつなぐ』を毎月お届けします。知的障害のある人の生活に関する問題や福祉施策の最新情報から、全国各地の先進的な取り組み、著名人によるエッセイなど、情報が詰まった『手をつなぐ』をぜひご活用ください。



賛助会費(年間) 4,100円

※賛助会費（年間）は前納制です。月割の支払などはできません。

※年度途中のお申し込みの場合、『手をつなぐ』は該当年度4月号まで遡ってお届けします。単号のみお求めの場合は、（一社）全国手をつなぐ育成会連合会までお問い合わせください。

※年度途中で終了する場合は、原則として賛助会費の返還には応じかねます。

※正会員（都道府県育成会等）を通してお申し込みいただいた場合は、賛助会費（年間）が3,900円となります。その場合、『手をつなぐ』はお申し込みいただいた都道府県育成会等よりお届けします。

《お問い合わせ先》 （一社）全国手をつなぐ育成会連合会
電話 03-5358-9274

全国の事業所から

たんぽぽの家
〔社会福祉法人 香川県手をつなぐ育成会〕
（香川県 高松市）

「たんぽぽの家」の一日は11人の元気な挨拶から始まります。

事業所で育てている真っ赤な香川本鷹唐辛子にパワーを貰い、作業で使用している藍染ブルーに癒され、ハーブの香りにも満たされているのでリラックス効果も抜群です。

このような自然があふれた中ですごく利用者は、毎日元気いっぱい！

午前の日課では、地域の清掃に出かけていきます。

清掃は、高松市内や市外の合わせて11か所。週1回から月1回の間隔で入っている公共施設は6か所あり、個人会社の事務所や個人宅を合わせて5か所にも月に1回から2回の間隔で入っており、清掃場所も多岐にわたっています。清掃を始めて長い所では20年の場所もあり、利用者のコツコツ真面目に取り組む姿勢や丁寧な仕事ぶりが、信用を得ているのだと思います。

午後の日課では、主に染色と農耕に取り組んでいます。

染色の材料として、畑で栽培している藍の生葉、マリーゴールド、ハーブ（バジル、ミント、バタフライピーなど）を主に使用しています。ハンカチ、マスク、手提げバッグ、スカーフ、Tシャツ等さまざまな商品を製作して、バザーや高松市役所の1階にある「ヨロコビ高松ふれあいの店」で販売をしています。コロナ禍での必需品であるマスクはヒット商品でした。

朝の言葉
コツコツ作業
ニコニコ笑顔
感謝の言葉を伝えよう
さあみんなでしっかりやろう
整理整頓
たんぽぽ元気

【朝の言葉】



【清掃作業の様子】



【染色作業の様子】

ハーブ栽培は2年ほど前に、東京都在住のアロマ教室の講師の方と出会い、ハーブ栽培を委託されました。

ハーブ栽培は初めてでしたが、講師の方の指導を仰ぎながら、ハーブ栽培を続けています。今後、乾燥ハーブ、ハーブ水、アロマオイルと計画的に取り組んでいく予定です。

農作物は、さつま芋、ピーナッツ、香川本鷹唐辛子（当法人の事業所から委託されたもの）、ブルーベリー、季節の野菜等を栽培しています。収穫したさつま芋やピーナッツ、ブルーベリーは、お菓子やピーナッツバター、ジャム、ピールに加工し、野菜は当日収穫して販売しています。リピーターも多く、毎年楽しみにしていただいております。



【ハーブの加工品】



【畑での農作業や地域交流】

隣の畑では、自治会長さんと地域の人達が季節の野菜を数多く作っています。土作りの手伝いや栽培方法のアドバイスをいつもしてくれます。その度に「暑い中、水やりや草抜き、よくやっているね。沢山できたね。また、小学校の芋掘り、一緒に掘ってね。」と声掛けをしてくれます。そのようなやりとりに、みんなニコニコ、お礼の言葉とOKのサインで返答しています。

先日、自治会長さんが、発達障がいについての研修をして、とても理解ができて良かったと話されていました。日々利用者と接する中で、一步踏み込んで知識を増やしていただいたことは、とても嬉しいことでした。

社会福祉法人香川県手をつなぐ育成会の基本理念は、「感謝・謙虚・共感」、「共生社会の実現」、「福祉サービスの質の向上」です。

当法人はこの理念のもと、障害福祉サービス事業として生活介護1か所、就労継続A型1か所、就労継続B型2か所、グループホーム3か所しており、このうち1か所は重度の方を対象にしています。また、短期入所事業を1か所運営しています。この他にも、相談支援、就業・生活支援センター、難病就労支援、働く場開拓及び就労定着推進事業、香川県手をつなぐ育成会活動の5事業を地域の利用者やご家族、地域の人達を対象に幅広く展開しています。

「たんぼぼの家」は、1986年（昭和61年）に開所し、2019年（令和元年）7月に香川県手をつなぐ育成会に加わり36年目を迎えました。染色、農耕、清掃、ハーブ栽培と何事にも前向きなチャレンジ精神で、取り組んできました。これからも基本理念の『感謝・謙虚・共感』の精神を、朝の言葉「感謝の言葉を伝えよう」と共に、日々実践していきたいと思っています。

（社会福祉法人 香川県手をつなぐ育成会
たんぼぼの家 管理者 橘 朱実）

知的障がい児者・自閉症児者の 生サポは 家族の安心を支えます

●日常生活に関する相談支援 ●就労に関する相談支援 ●権利擁護に関する相談支援
の3事業を実施しています。

当会にご入会いただくと、知的障がい児者、自閉症児者のための病気やケガの総合補償制度をご利用いただけます。

主な補償内容

病気やケガで入院したとき
入院給付金

賠償責任を負ったとき
個人賠償責任保険金

ケガをしたとき
死亡・後遺障害・入院・通院・手術／各保険金
(地震・噴火・津波によるケガも対象)

虐待・逮捕・勾留に対応するとき
弁護士費用等補償
※プランによって補償します

病気で死亡したとき
疾病葬祭費用保険金
※プランによって補償します

就労中に他人にケガをさせたり
物を壊してしまったとき
職業従事中事故対応費用補償
※プランによって補償します

※上記は概要ですので詳細は下記までお問い合わせください。

●生活サポート総合補償制度の主な特長●

- ▶入院給付金は既往症の病気、てんかんも補償。
- ▶全国の団体を通じてのご加入のため、多数割引が適用され、個人加入の場合に比べて保険料が割安です。
- ▶取扱代理店は、知的障がい児者や自閉症児者への保険の販売において、30年以上の実績があります。

生活サポート総合補償制度は…

全国で約149,000人のみなさまにご利用いただいている補償制度です。



AIG損保の普通傷害保険

生活サポート総合補償制度

特定障害者福祉団体傷害保険特約、弁護士費用等補償特約、
職業従事中事故対応費用補償特約、地震・噴火・津波危険補償特約セット

保険のお問合せはこちら

■担当代理店・扱者
株式会社 ジェイアイシー
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビル2号館2F
TEL: 03-5321-3373 FAX: 03-5321-4774
受付時間: 午前9時～午後5時
(土・日・祝日・年末年始を除く)

■引受保険会社
AIG損害保険株式会社
<https://www.aig.co.jp/sonpo>
東京第二プロチャネル営業部
〒163-0814 東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル14階
TEL: 03-6894-9110
受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ご入会のお問合せはこちら

一般社団法人 全国知的障害児者生活サポート協会
連絡先はTEL又はホームページにてご確認ください。
TEL: 03-5577-6351 <http://www.zensapo.jp>
加入窓口は全国の全国知的障害児者生活サポート協会傘下の
各都道府県団体の事務局となります。

2021年12月現在の内容です。(D-005640 2023-03)

病気やケガが絶えない…
成人病や生活習慣病に備えたい…



他人の物を壊してしまった…



このようなお困り事に
心当たりがある方に…



虐待・雇用現場での差別など
人に相談しにくい悩みがある…

障がいのある方とご家族へ



ぜんちの

あんしん保険

少額短期健康総合保険(株式会社)2019年創設

- ・最高日額1万円
- ・個人賠償責任補償
- ・弁護士費用補償
- ・安心サポート

知的障がい・
発達障がい、ダウン症、
てんかんの有る方、
ご家族に

弁護士が
全面的に
サポート

特別支援教育を必要とされている方へ



ぜんちの

こども傷害保険

権利保護賠償付傷害保険 2019年創設

- ・入院・通院を日額保障
- ・個人賠償責任補償
- ・トラブルに巻き込まれた際、
弁護士がサポート



※ご契約にあたっては必ず「ご契約に際しての重要事項」「約款」東京海上日動の「重要事項説明書」をよくお読みください。
ご不明な点等がある場合には、ぜんち共済株式会社までお問い合わせください。

詳しい資料のご請求・お問合せはこちら

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-5 九段北325ビル4階

0120-322-150

平日9時～17時/土日・祝日・年末年始を除く

URL: <http://www.z-kyosai.com/>



ぜんち共済株式会社

関東財務局長(少額短期保険)第14号

【2020年1月作成 19-TC06633】

編集後記

もう早いもので、岩手県の富士山と呼ばれる岩手山には、初雪が降りました。



【初冠雪した岩手山（10/6）】

全国的には秋となり、紅葉の真最中ではありますが、岩手では少しずつ冬の気配を感じています

当法人は、就労継続支援A型事業で 岩手中央農協からの事業を継承して、2008年度(平成20年度)から産直・日常サービス店舗を行っています。その関係で、野菜を通して季節の変化を感じることができます。産直では、秋彼岸の花祭りが終わり、秋の収穫祭や感謝祭が開催されています。食べものと言えば、きのこ類、芋の子、新米、リンゴ等が順次収穫されていきます。

A型の利用者も、販売する野菜の陳列や野菜加工や梱包などを行い、自然と食べ物に対する感謝の気持ちも感じられるようになっていきます。今回の新潟県で開催される全国研修大会を期に、生きていくために必要な食べ物の生産について考えながら、農福連携の必要性を改めて認識し、利用者ともども法人の活力としていきたい。

（東北ブロック 石川 明博）

全国手をつなぐ事業所協議会ニュース 『ほっとすぺ～す』2022年10月号 (通巻144号) 2022年10月15日発行	【編集・発行】 全国手をつなぐ事業所協議会 岩手県盛岡市下飯岡 15 地割 77-3 TEL 019 (613) 7200 定価 100 円
--	---

コピー用紙 定期配送サービス

ウチダシステムズの通販をご利用頂ければ、
事務用品・衛生用品などが
全国手をつなぐ育成会連合会
事業所協議会様向けの特別価格で
お安くご提供できます！

ポイント①


760万以上の商品を
「事業所協議会の皆様だけの特別価格」
 でご提供します！

ポイント②

最短翌日配送のスピードで欲しいものが
 直ぐに届く！
 ※一部、対象外の地域有

ポイント③

請求書を科目や事業毎に分けることが出来るので経理業務が楽に！



ご相談は下記までお問合せ下さい。
株式会社ウチダシステムズ 福祉施設営業部
TEL : 03-3537-0888